

2011年大阪市長選挙についての確認書

東日本大震災、原発事故を体験した国民は、住民のいのちと暮らしを守る新しい政治を力を合わせて進めようとしています。原発からの撤退、自然エネルギーへの転換、福祉・防災街づくりを最優先で進める自治体づくりが求められています。4年前に誕生した平松市政は、無駄な大型開発、不公正乱脈案同和行政の推進、市民いじめを変えてほしいという市民の願いが誕生させたものでした。しかしながら、平松市長はWTC処理、中学校給食などの公約に背を向け、前市政の市民いじめ路線、大型開発路線を継承してきました。高すぎて払えない国民健康保険加入者に対して、その実態を丁寧に掌握することもせずに、一方的な財産調査と差押え、「子どもの無保険」状態まで作りだしました。生活保護に関しては、貧困を直視しようとせず、制度改悪の旗振り役を果たしています。大阪市の解体を主張する橋下知事に「市民の声が市政に届いていない」との弱点を指摘されても、反論ができないのが実態です。

橋下知事は、「大阪都構想」の中で大阪市の解体、その税収や資産、権限のはく奪を狙い、大規模開発をいっそう推進しようとしています。現在の大阪市政に対する市民の怒りを、「劇場型政治」を駆使して自らの支持へとつなげようとしています。また「政治には独裁が必要」「教育は2万%強制」などの言動は、民主主義とはあいられないものと言わざるを得ません。

大阪市民にとっては、いずれの選択も不幸な結果を招かざるを得ないでしょう。

今、大阪市長に求められる資質とは、①広がる貧困と格差の中で、市民生活を守る確固たる姿勢を持ち、市政を変えようという情熱を持っている人、②東日本大震災を受け、市民の命を守るために、防災計画の根本的で早期の見直しなど、大胆かつ柔軟な姿勢を持つ人、③今なお一般行政の中で形を変えて残されている同和行政や不要不急の大規模開発等の問題に勇気を持って臨める人です。

わたし考一は1996年当選以来、どんな問題でも市民のいのちと安全、暮らしを守る立場で献身することを信念とし、4期15年間日本共産党大阪市会議員として活動してきました。このたび大阪市をよくする会からの出馬要請を受け、立候補の意思を表明しました。大阪市をよくする会は、わたし考一の立候補表明の決意を心から歓迎し、無所属候補として推薦し、広範な市民と共同して市政改革を実現するために全力でたたかう決意を表明しました。

双方は、大阪市の解体、市民いじめと大規模開発推進の政治を許さないために、政策については誠実に協議し、市民の声が本当に市政に届く市政改革を進める意思をここに確認するものです。

2011年9月9日

大阪市長予定候補

わたし 考一

大阪市をよくする会事務局長

福井 朗